

	音楽研究会 部会記録					
日時	平成30年 10月 3日(水) 15:30~16:45					
部会名	研究部 管楽器部会(授業実践部会と合同)				主任	今泉 美保
参加数	3名	司会	今泉 美保	記録	岩本 育代	
研修内容	二部会合同【一斉授業研の修行実践】					
	講師 東希望ヶ丘小学校校長 村上 雅基 先生					
	場所 横浜市立桜岡小学校					
	提案 横浜市立上飯田小学校 秦 恵美子 先生 横浜市立洋光台第一小学校 森野 淳 先生					
	(秦先生)					
	主題 全体の響きを聴き、声を合わせて歌おう 教材 「星の世界」					
	(森野先生)					
	主題 曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、響きのある声で歌おう 教材 「ふるさと」					
	活動の流れ	参加者からの意見・講師の助言				
	(秦先生)					
	○指導案の概要説明	<ul style="list-style-type: none"> ・なんとなく歌えているが、課題を突き詰めていく力が弱い。 ・聴く力を強化し、「響きって何だろう」を高めたい。 ・6グループに分けて、ペア活動ができるようにする。ポイントを絞って歌い、変容していく過程を大事にする。 				
	○授業者が悩んでいる部分を実際に部員で歌ってみる。 ・6人ずつ3部合唱 ・一人ずつソロで3部重唱	<ul style="list-style-type: none"> ☆響き合いを感じられるポイント、課題 ・最初にIの和音をオルガン等を出し、響きを確認する。 ➡トーンチャイムを使う ・斉唱から3部合唱に戻るところの音程に気をつける。 ・各パートの特徴(①は旋律②は難しいけどやりがいがある③は低音が多いので、変声期を迎えた男子向きなど)を伝えて、パートを選ばせてもよい。 ・音程がそろわないと響き合いまで到達しない。まずつられないように本時までに音程をしっかりとる。 ・伴奏はないほうが響きを感じられるようにも思うが、よりどころの音がないとうまく響き合えないので、児童の活動や実態に応じてオルガンやCDなどを準備する。 				
		【講師の先生より】				
		<ul style="list-style-type: none"> ・和音の流れ(=移り変わり)が重視されている主題。 I(落ち着く)→IV(発展)→V7(緊張)という和音のもつ色(ゾクゾク感)を味わってほしい。 ・歌詞で歌うと歌詞のほうへ意識がいくってしまうので、 				

		<p>「マ」で歌って響きに集中させたい。(教科書掲載)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CDよりも生のほうがより響きを感じられる。可能なら、本時で指導者とあと2人、3人の先生で生歌唱できたら・・・。
	<p>(森野先生)</p> <p>○指導案の概要説明</p> <p>○授業者が悩んでいる部分を部員で話しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1番、2番、3番に分かれて、それぞれの歌詞にふさわしい表現方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の時から人前で歌うことに慣れているが、自分の思いをはっきり表現したり伝えたりできるようになってほしい。 ・歌詞の中身を吟味して、「言葉(歌詞)」を伝えるための工夫に着目させたい→対話(教師と児童、児童同士、児童と楽曲) <p>☆予想される子どもから出る表現の工夫と教師の支援</p> <p><1番></p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去を表現している歌詞なので、テンポをゆっくりにする。 →根拠をもってテンポを変えるならばよい。 ・大事な言葉に着目することを先に投げかけておくとういのは。 →あまり限定すると発想や工夫を狭めることになるかもしれない。 →教師の発問や投げかけ方、タイミングに工夫が必要。 <p><2番></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「思いいずる」・・・力が入るはず 言葉の力に合わせて歌う。 →第1時の歌詞の解釈が勝負。 <p><3番></p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後のフレーズは rit.をイメージするかもしれない。 ・「ふるさと」・・・2回出てくる 「山」「川」全体で何度も出てくることに気づいて、工夫につながられたら・・・ ・同じ mfでも歌い方を変えるというのは、児童にとっては難しいのでは？ <p>【講師の先生より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ6年生2本の授業提案だが、主題が違うため楽曲のアプローチの仕方が全然違う。良い提案。 ・原則作者の思いを無視してはいけませんが、言葉の力点で子どもに工夫させるのは面白い。 ・例えば・・・「父」「母」「友」歌詞の抑揚に合わせて歌い方を変えてもよい。 ・楽譜にあるクレッシェンド・デクレッシェンドをどう歌詞と合わせていくか。